

# 学校自慢

## 「誰もが安心して暮らしていける街」への 小さな一歩

県立館山総合高等学校長 わたなべ 渡邊 よしゆき 嘉幸



### 1 はじめに

本校は、一年を通して温暖な房総半島南端の館山市に所在する、統合13年目を迎えた高校である。本校で展開される教育の淵源は、産業教育に長い歴史を刻んだ館山高校と安房水産高校にあり、以来、両校の伝統を継承、発展させ現在に至っている。このため、全日制に工業、商業、海洋、家政の4学科、定時制に単位制普通科、さらに大型船の船長・機関長を育てる専攻科を併設している。また、県立千葉大宮高校のスクーリング協力校としての指定も受け、県下有数の多様な学びを展開している。

### 2 特色ある実践活動

生徒が「実学によるスペシャリストへの道」を歩んでいく中で、各学科においては特色ある学びが展開されている。その数々の取組を縦横につなぎ始めたのが、平成30年度に家政科を中心に指定を受けた文部科学省のSPH（スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール）事業である。

「教科『家庭』の学びをコミュニティ再生に生かす地域共創人材育成プログラムの開発～地域の生活を支え、地域の賑わいを創り出す「まちカフェ」プロジェクトへの挑戦～」という研究開発課題を掲げてスタートし、3年目を迎えた今年度が最終年度にあたる。

その中心にある「まちカフェ」の運営では、人口減少や高齢化により危惧される地域社会の機能維持に資するため、「地域の子育て支援」「高齢期の生活の質の向上」「生活文化の伝承・創造」「減災に関する学習」を充実させることを目指している。また、運営に当たっては、次代の郷土を創る人材の育成や学校を

核とした街づくりを意識し、館山市や大学、NPO団体等と連携・協働している。

「まちカフェ」で行う4つのフィールドは「減災活動」「交流～乳幼児とその養育者、高齢者、支援を必要とした方々との交流～」「食のまちPR活動」「地域の魅力発信」であるが、多岐にわたる活動の中で、工業科と連携した“かまどベンチ”の製作や海洋科と連携した“食べるかつおのラー油缶詰”の製造、生存対策講習会の実施、商業科と連携したクイズ形式の“館山検定”の開発等を行った。



まちカフェ パウンドケーキ販売

### 3 おわりに

このような取組を進める中で、生徒は変容を遂げ、自分の想いを表現したり、初対面の人でも自然に声掛けをしたりするようになった。昨年度の被災の際には、館山市の支援も得て、手製の支援物資等を携えて災害の大きかった地域に入り、お年寄りの「声」を聴き、行政につなげる活動をした。

全学科が協力して館山駅前で開催した「まちカフェ」では多数の市民に来場していただき、生徒たちは「館総の防災・減災活動」が少しずつ広がり始めたことを実感している。